

脈并注して、其の氣滑利たり。壅骨^④の下に伏行し、外に屈して寸口に出でて行き、上りて肘の内廉に至り、大筋の下に入り、内に屈して臑陰^⑤を上行し、腋下に入り、内に屈して肺に入る。此れ順行逆数の屈折なり^⑥。

【語意】

- ①白肉際——際は境界線。肢体の内側と外側を白肉、赤肉とする。その境を白肉際ないし赤白肉際という。
- ②本節——手足の指と掌との関節部で、手足の背部の隆起しているところ。
- ③留れて以て澹とし——澹は水が揺れ動く様をいう。脈が太淵まで至ると拍動していることを言い表したものの。
- ④壅骨——第1中手骨。
- ⑤臑陰——臑は肩より下、肘より上の部分。臑陰とは手の三陰経が流注する上腕内側。
- ⑥此れ順行逆数の屈折なり——手太陰肺経は肺から手に走るのが順行、手から肺に向うのが逆行。逆数とは逆行の順序のこと。

● 『素問』 繆刺論第六十三

邪客於手足少陰太陰足陽明之絡。此五絡皆會於耳中。・・・

【書き下し文】

邪 手足の少陰・太陰・足の陽明の絡に客すれば、此の五絡 皆 耳中に会し、・・・
(訳者注：心経、腎経、脾経、胃経の箇所では、再録しない)

● 馬王堆帛書

『足臂十一脈灸経』

臂泰陰脈，循筋上廉，以奏臑内，出腋内廉，之心。

『陰陽十一脈灸経』

臂鉅（巨）陰脈，在于手掌中，出臂内陰兩骨之間，上骨下廉，筋之上，出臂内陰，入心中。

■ 手太陰肺経の循行についてのまとめ

I. 肺経の循行経路には相反する2種類がある。1つは胸から手の末端に循行するもので、『靈枢』経脈篇などにみられる。もう1つは手から胸に向かうもので、『足臂十一脈灸経』や『陰陽十一脈灸経』『靈枢』邪客篇がそうである。しかし、『靈枢』邪客篇